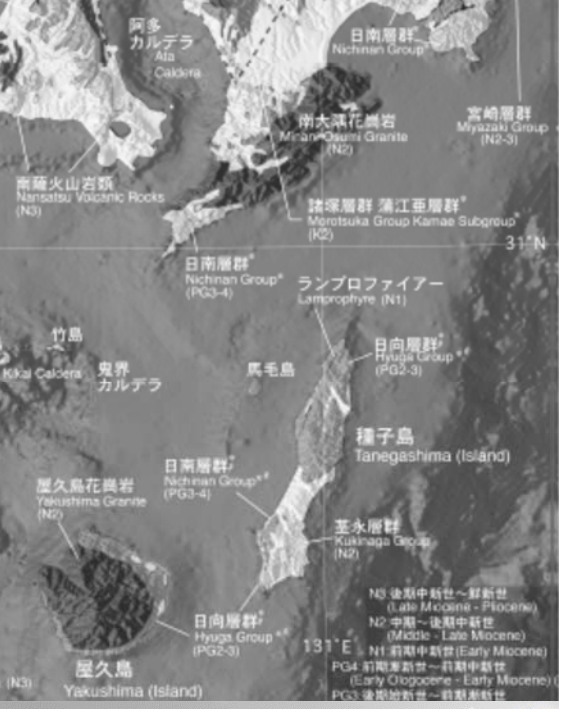


第5回屋久島研究講座

屋久島津波痕跡の発見

ー屋久島を襲ったここ数百年の歴史津波ー

講師　中川　正二郎氏
（屋久島地学研究会）

2月28日 水 19:00～20:30

場所　：　屋久島環境文化村センター（宮之浦）

平成29年11月6日（月）　第3種郵便物認可　南日本新聞

屋久島に津波痕跡

地元の中川さん発見

屋久島地学同好会副代表の中川正二郎さん(57)が、屋久島町の小瀬田海岸に露出した地層に300～400年前の津波痕跡とみられる層を見つけた。南海トラフを震源とする「慶長地震」（1605年）と「宝永地震」（1707年）の可能性もあり、馬毛地域での津波痕跡確認は初めてという。

300～400年前か　熊毛で初確認

小瀬田地区は屋久島の東海岸に位置する。海岸線から約30㍍離れた地点に露出した地層（標高約7㍍）で丸みを帯び、平たい礫の堆積層が2層見つかった。下側の礫は最大直径28㌢、上側は同25㌢だった。

礫はもともと海浜にあったものとみられ、内陸側に数十㍍進ばれる事例は台風の影響も考えられる。だが、同じ礫層が、海岸線ある。屋久島には津波約200㍍の広範囲に確認されたことや、堆積状況などを検討して津波痕跡と判断した。

分析結果から、津波は北東方向から押し寄せたと想定でき、南海トラフ地震の可能性も考えられる。屋久島には津波到達の文献記録がないが、地層に混じる陶磁器片と炭の年代測定の結果なども踏まえ、下の層は慶長、上が宝永地震の影響を受けた可能性を指摘する。

内閣府の有識者会議が2013年に発表した南海トラフ巨大地震の影響について、屋久島東海岸では津波高13㍍との試算もある。

調査協力した産業技術総合研究所（茨城県つくば市）の七山太さん(55)＝地質学＝は「琉球海溝や南海トラフで起こった海溝型地震の影響を考える上でも意義深い。種子島を含めはじめ広域的な精査が必要」と語った。

中川さんは「屋久島も津波と無縁じゃないことが分かった。今後も島内の地質調査を精力的に進めていきたい」と話した。

今回の調査成果は福岡大学から出されている論文集に掲載。来年2月には、屋久島環境文化財団が主催する住民向けの講演会で報告する。（山田大輔）

小瀬田海岸に露出した地層の中に、丸みを帯び平たい礫の堆積層が2層確認される（中川正二郎さん提供）

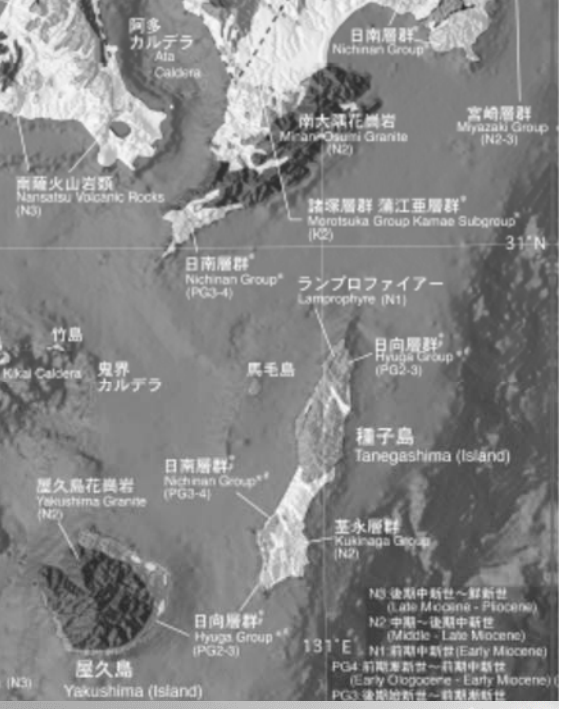
南日本新聞　平成29年11月6日版

一般の方の予約は必要ありません。但し、ガイドの方で受講証明書の必要な方は必ず前日までに予約をしてください
今年度最後の研究講座となります。

お申込みお問い合わせ

（公財）屋久島環境文化財団

TEL　0997－42－2911



第5回屋久島研究講座

屋久島津波痕跡の発見

ー屋久島を襲ったここ数百年の歴史津波ー

講師　中川　正二郎（屋久島地学研究会）

主催　（公財）屋久島環境文化財団

共催　屋久島町　屋久島町エコツーリズム推進協議会　屋久島町教育委員会

公益社団法人屋久島観光協会屋久島学ソサエティ